

鉄道ピクトリアル

2012年1月号 Vol.62 No.1 通巻No.858

<特集> 特急100年

■表紙 583系「なは」……………太田正行
山崎 1977-7-24

■グラフ

特急列島縦断 (1~8ページ)

河原慶明・山口大助・高木喜一・金子 聡・神田竜司
太田正行・白土洋次・浜村正弘・今泉博之・井上 武
森 友紀・岡本文彦・末石和寛・山中 茂・戸塚光弘
石原裕紀・赤座安彦・尾崎 渉・早川昭文・藪下茂樹

国鉄特急が輝いた時代 (108~111ページ)

……………小林 武・太田正行・浜村正弘・三ッ谷政久・森田 宏

*

旧形客車編成による特急列車最後の活躍 …伊藤 昭・伊藤威信… 41

特急「つばめ」の足跡をたどる ……………写真：佐竹保雄ほか… 44

昭和後期の鉄道情景(1)箱根湯本界隈昔日 ……………巴川 享則… 50

583系とその一族—最近四半世紀の活躍と近年の状況— …佐藤 利生… 52

関東鉄道キハ350が引退……………大里 信之… 56

*

Pictorial Color Gallery 回廊を抜けて……………飯塚 卓治…105

JR北海道グリーン車リニューアル工事／伊豆急行開業
50周年記念クモハ103営業運転復活・2100系「リゾートド
ルフィン」登場／京王電鉄井の頭線「ありがとう3000系
フェスタ」開催／山陰本線でお召列車運転ほか

112~115

トピック・フォト(各地・関東・中部・関西)……………116

JR東日本113系幕張車 さよならマーク掲出から終焉まで

……………松田 巧…124

多様な個性を見せるオーストリアの軽便鉄道……………柴山多佳児…126

JR東日本新潟支社 訓練車の記録……………中村 剛…128

■本 文

今月の話題：特急列車100年……………編 集 部… 9

明治から平成まで特急列車が歩んだ100年……………山田 亮… 10

国鉄特急列車 編成記録ノート (21~40ページ)

……………和久田康雄・千代村資夫・三宅俊彦・山田 亮
真鍋裕司・岸上明彦・三木理史

興味ある国鉄特急列車とその運転 (I)……………寺本 光照… 58

寝台特急電車583系とその一族……………佐藤 利生… 66

JR九州の特急列車—783系と787系を中心に—……………宮川 浩一… 80

地方私鉄の特急列車……………真鍋 裕司… 94

*

鉄道の話題……………編 集 部… 57

鉄道の情景を絵葉書で伝えた人達①文豪達の見た鉄道 …白土 貞夫…102

書評(574)『京浜急行 昭和の記憶』……………和久田康雄…104

新年号スペシャル

地方鉄道再生への挑戦 ひたちなか海浜鉄道 吉田千秋社長が語る

……………構成：宇都宮淳人…129

映画『RAILWAYS 愛を伝えられない大人たちへ』

……………構成：鹿瀬秀明…137

オーストリアの760mm軽便鉄道……………柴山多佳児…145

東海道新幹線前史 弾丸列車計画の全貌(1)……………地田 信也…154

北陸鉄道小松線の未成線……………山本 宏之…162

10月のメモ帳……………165

鉄道ピクトリアル2010年主要総目次……………166

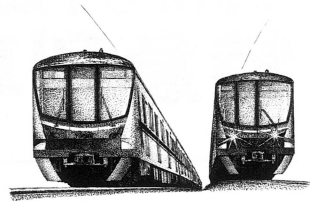
読者短信・情報ファイル……………168

後部車から……………172

ISSN0040-4047

Tetsudo pikutoriaru

今月の話題



カット：山本茂樹

特急100年

特急という種別は1912(明治45)年6月15日、鉄道院が東海道、山陽、北陸線を対象として実施したダイヤ改正により、新橋—下関間に一日1往復新設された「特別急行列車」が起源であるとされている。したがって、2012(平成24)年は特急誕生100周年ということになるのである。本特集はその歴史を国鉄~JR路線における在来線中長距離輸送、いわば本質的な特急列車の動向を振り返ることを主眼としたものであり、系統が異なる民鉄特急については、今回は多くを除外して構成している。

さて、かつて特急列車と言えば、庶民の旅ではあまり馴染みのない存在であり、急行とはかけ離れた上流階級の列車というイメージであったようだ。運転線区も長く東海道・山陽に限られていたが、そうした中で1956(昭和31)年には九州特急、翌々年に東北特急が新設されるなど、特急は鉄道発展の象徴として、輸送の近代化とともに各方面に展開していった。1961(昭和36)年には全国に特急路線網が形成され、東海道新幹線開業以降も輸送の花形として増強が続けられた。

しかし、新幹線(種別は同じ特急だが……)ネットワークの整備が進み、鉄道を取り巻く社会変化の中で、在来の特急列車のあり方はその後大きく変わり今日に至っている。すなわち、往年の「つばめ」「はと」の時代のようなある種の威厳に満ちた特別な列車の風格はなくなり、ごく一般的な列車へとその姿を変えていったのである。悪く言えば格落ちといったところかも知れないが、時代に即して利用しやすく進化した特急の姿となったと捉えたいものである。一方、非日常性が強い「カシオペア」などの寝台特急も好評を博しており、一世紀を経た「特急」には、変わらない重みがあるように思う。

TETSUDŌTOSHO KANKŌKAI
Oak Ochanomizu Bldg., Kanda Ogawamachi 3-8 Chiyodaku, Tokyo/Japan